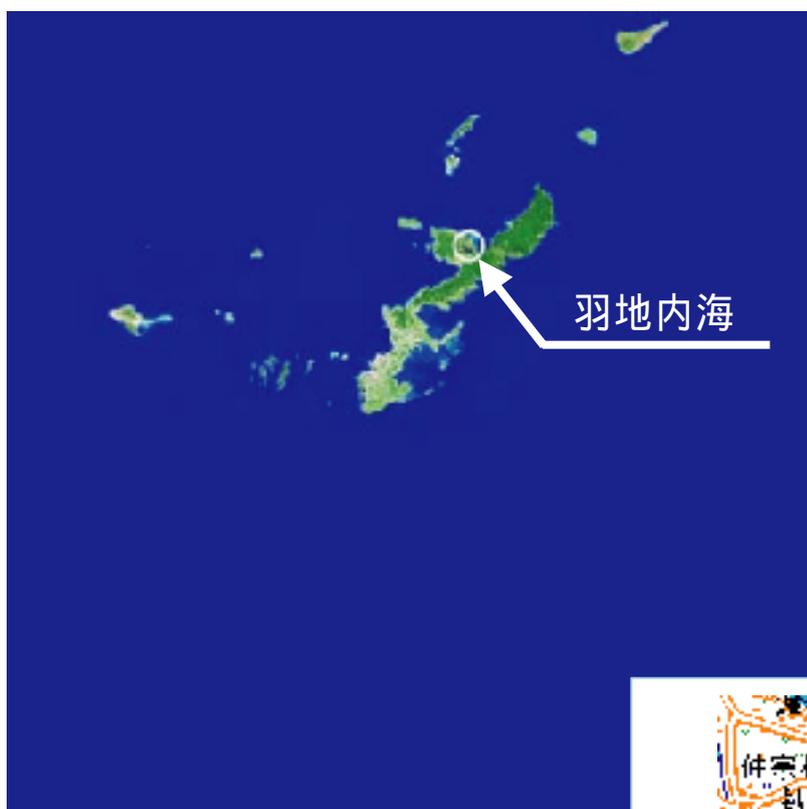


## 海域の概要

本湾は、沖縄本島北部の本部半島の東側にある屋我地島と奥武島に囲まれた内海です。湾内の干潟は鳥獣保護区となっており、多数の鳥類を観察することができます。



## Specification

### 諸元

湾口幅：1.6 km

面積：10.3 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：1.0 m

湾口最大水深：1.0 m

閉鎖度指標：2.01

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

沖縄県名護市奥武橋、屋我地大橋、同市屋我地島北端と国頭郡今帰仁村運天港崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

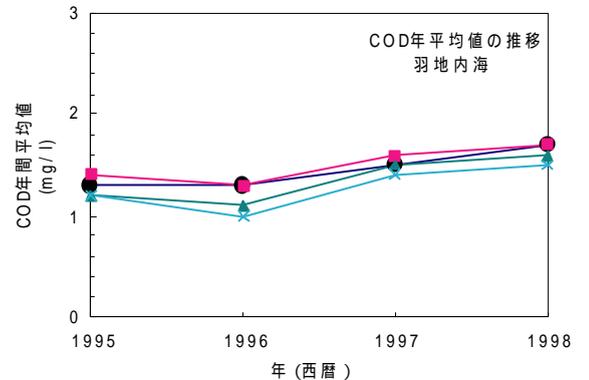


## 環境

沖縄本島北東部西岸の本部半島と屋我地島および奥武島に囲まれた最大水深10m程度の浅い内海です。河川は奈佐田川など小河川が数本流入するのみです。

羽地内海の環境基準は、奈佐田川河口の呉我と仲尾でB類型に指定されている以外は、全てA類型となっています（平成10年度）。

COD年平均値の経年変化をみると、どの地点とも緩やかに高い値を示す傾向にあります。



## 自然

羽地内海は、北は今帰仁半島、古宇利島に囲まれ、南に多野岳、東は与那覇岳連山から辺戸岬を一望することができる景勝で沖縄海岸国定公園に指定されています。休日ともなれば屋我地ビーチを中心に、潮干狩りや釣り人が多数訪れて賑わっています。

湾内にはサンゴ礁やアマモやウミヒルモを主体とする藻場が分布するほか、屋我地島の南側の饒平名集落前には干潟が広がり、海岸線にはオヒルギやメヒルギなどのマングローブ林や、モクマオウなどの防潮林なども見られます。また、ミナミトビハゼやトビハゼも多くみることができます。ここは野鳥の集団渡来地として、国設の鳥獣保護区に指定され、留鳥のバンやシロハラクイナなどが生息し、マングローブ林や防潮林ではシジュウカラ、メジロ、コゲラなども姿をみせます。冬季には遠く北の国から渡来してくるシギ、チドリの仲間やサギ、ガン、カモ類の仲間などの姿も見ることができます。



ミナミトビハゼ

## 文化歴史

羽地内海に面する名護市では、屋我地島の墨屋原（スミヤバル）の浜で約4500年前の遺跡が見つかりました。1500~2000年前の時代になると、名護貝塚をはじめ各地の海岸の浜堤を中心に人々の居住がふえ始めました。

中世期では、今帰仁城を構える北山から琉球王朝と時代が移り、米とサトウキビ作りが農民に課せられる一方、特産物として鑿金（ウコン）も指定されました。近代になると出稼ぎと移民が多くなり、昭和10年、名護市出身者で海外に居住する人数は人口比にして19%になりました。

## 産業

県内最大の内海で、マダイ・ハマフエフキ・モズク等の養殖が盛んです。また、県内でも有数の景勝地でもあることから、海の資源と観光資源を結びつけたイベント等を計画し、観光客の誘致にも力をいれています。一方、沿岸には、サトウキビ・パイン栽培が大きく広がり、畜産場、養鶏場も見られます。

なお、名護市では、昭和の経済成長期に、オリオンビール、琉球セメント、北部製糖、経済連パイン工場の近代的な大工場が立地されました。



パイン畑